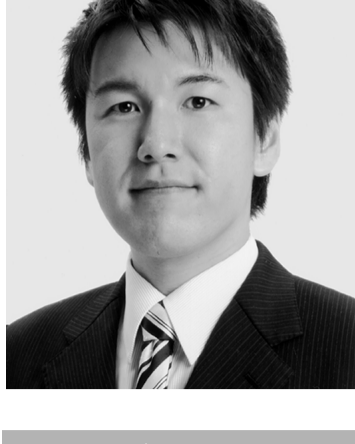


千葉市議会議員

亀井たくま ニュース

発行 亀井 琢磨 2017年晩夏の便り号(通算第34号)
自宅 〒260-0042 千葉市中央区椿森3-13-8 携帯 090-3694-4173
事務所 〒260-0042 千葉市中央区椿森5-4-5 TEL/FAX 043-255-8108
ホームページは亀井たくまで検索をお願いします！ メール DQG06110@nifty.ne.jp



こどもの貧困支援、すべての子に教育機会の充実を！ 犬猫殺処分は2年連続ゼロ！今後も人と動物の共生を！

まだまだ暑い日が続きますが、皆様、いかがお過ごしでしょうか！いつも市政へのご協力をありがとうございます。皆様のおかげをもちまして、亀井たくまは6月定例会(6月26日～7月13日)におきまして、7月7日、連続25回目の質問に登壇し、皆様の声をお届けしてまいりました。以下、質問と市の答弁を要約して、市政報告を申し上げます。(議会の録音放映は「千葉市議会ホームページ」でご覧いただけます！)

9月定例会は9月5日より開会予定です。今後も皆様の声を基本に、「亀の歩み」で一歩ずつ地道に活動してまいります。どうぞまた御意見をお寄せください。

こどもの人権・福祉・教育について

- Q 市内でも外国籍の児童・生徒が増加している。外国籍および日本語支援が必要な子どもたちの現状と課題は。
A 市内小中学校における外国籍児童・生徒は1100人で、そのうち小学生330人、中学生150人に日本語指導が必要となっている。年々増加傾向にあり、対応すべき言語が多様化していることが課題と認識している。
- Q こどもたちへの日本語指導・学習支援の取り組みを。
A 11名の外国人児童生徒協力指導員を各学校に派遣し、日本語指導を行っているほか、小学生対象の指導教室や、中学生対象の指導通級教室において個別支援を行っている。また、外国籍児童が多い学校には日本語指導教員を配置し、支援にあたっている。
- Q 日本語指導が必要な生徒への高校進学へのサポート体制は。
A 中学校の通級指導教室で指導を受けていた生徒の進学率は92.9%であった。外国人・帰国生枠での受験など、生徒1人1人の状況に応じて、高校と連絡や相談を行い、対応している。
- Q ニーズの増加を踏まえ、日本語指導ボランティア等とのさらなる連携や支援を。
A 国際交流協会や民間ボランティア団体、大学等の協力のもと、学校への支援を行っているが、学校からの支援要請が増加しており、外国人児童生徒指導協力員の増員を検討するほか、関係団体とさらに連携し、支援体制の充実に向けていく。
- Q ひとり親への支援を。「養育費確保」「こどもとの面会交流」の支援を。
A こどもの利益の観点から、離婚後も養育費が継続的に支払われること、親子の適切な面会交流が行われることは重要であり、各区保健福祉センターの母子自立支援員が相談対応にあたっている。今年度、養育費や面会交流に関する無料の弁護士相談会を実施していく予定であり、今後も拡充に取り組んでまいりたい。
- Q 「小中学校入学準備金の前倒し制度」(現在の7月支給を3月支給に)の早期導入を。
A 3月の要保護世帯への国の制度改正も踏まえ、今後も検討してまいりたい。
- Q 「保護者負担」の学校間格差の現状は。制服代や修学旅行費、教材費(副読本)は、学校によって最高額と最低額でどれくらい差があるか。保護者負担の軽減策は。
A 中学校制服代は3～6万円台で差額は26,000円。修学旅行費は4～5万円台で差額は18,000円。副読本は



【毎回、必ず質問に登壇しています】

- 小学校で4,000円。中学校は3,000円の差がある。副読本については、教育効果に有効な必要最小限のものを選定し、修学旅行は適切な料金設定の旅行業者の選定をはかっている。今後も軽減に努めていく。
- Q 制服や教材をリユース(再利用)する取り組みの促進を。
A 多くの中学校で、学校・PTA・保護者会が卒業する生徒に呼びかけて回収し、貸与をしたり、安価に売す取り組みを行っている。今後も各学校で行われるよう、呼びかけてまいりたい。
- Q こどもの貧困への活動が期待されるスクールソーシャルワーカーのこれまでの実績は。さらなる拡充を。
A 平成28年度は、不登校をはじめ89件の事案に対応し、約半数で課題の解消・改善をはかってきた。各校からの派遣要請が年々増加しており、配置の拡充を検討し、関係機関との連携強化を進めていく。
- Q こどもたちが貧困に関連した不安・悩みや生活課題について相談できる体制づくりを。「こどもの貧困策推進計画」の「子どもナビゲーター」の今後の。
A 経済的問題だけでなく、こどもの生活習慣や生活環境の改善のための直接の支援も必要と考えており、後、子どもに寄り添う存在として支援する「子どもナビゲーター」を配置し、関係機関と連携しながら援を進めていきたい。
- Q こどもたちへ「さまざまな学びの機会」の提供を。「放課後こども教室(わくわくキャンパス)」の充実を
A 昨年度から、総合コーディネーターを配置し、企業や大学、NPOなどと連携したプログラムもモデル校10校で実施してきている。今年度は、新たにモデル事業として、子どもルームとも連携しながら、民間企業による算数や英語などの学びの場も提供している。今後も充実に取り組んでいく。
- Q こどもたちのために、地域資源を活用しての学習支援を。
A 磯辺中学校では、学校支援地域本部事業の活動として、地域ボランティアの協力により、放課後の数学・英語の学習相談を実施している。今後も、【院内小の放課後こども教室(学習の時間各地域でそのような学習支援について働きかけてまいりたい。】



【院内小の放課後こども教室(学習の時間各地域でそのような学習支援について働きかけてまいりたい。】

亀井はこう考える！ 貧困の連鎖を断ち切る施策・取り組みの推進を！

- 厚生労働省の調査によれば、18歳未満のこどもの貧困率は13.9%であり、7人に1人が貧困状態とされています。貧困の連鎖を断ち切る施策が私たちに求められています。今回、「こどもの貧困対策・支援」をテーマに以下の3つの観点から、質問・提案を行いました。
- ①「外国籍・日本国籍のこどもへの日本語指導支援」・・・文部科学省調査では、全国で日本語指導を必要とする外国籍のこどもは約34,000人、日本国籍のこどもも約9,600人と過去最多となっています。現在、市内の外国人人口は22,000人であり、年々増加しています。私は、行政書士として、外国人のビザ・生活支援の相談業務に携わってきた経験から、生活支援や日本語の支援の大切さを肌で痛感してきました。言葉がわからないことで、こどもたちの未来が閉ざされてはならないと思います。適切な指導・支援があることで、高校進学にもつながっています。より多くのこどもたちへの支援充実を求めました。
- ②「保護者への経済的支援・保護者の負担軽減・こども・家庭への相談支援」・・・経済的支援の観点から、「ひとり親家庭への支援」として、養育費確保事業(養育費が正しく払われることで、ひとり親・こどもの生活保障になります)をはじめ、就学援助における入学準備金の4月への前倒し支給、学校教育における保護者負担の適正化・軽減策を求めました。また、声をあげることができないこどもたちや家庭のさまざまなSOSを早期に支援に結び付けていくための「スクールソーシャルワーカー」のさらなる拡充などを求めました。
- ③「こどもたちへのさまざまな学習機会・体験機会の拡充」・・・こどもの貧困の問題は、こどもたちが本来享受できるはずの、さまざまな体験機会を「剥奪」されていることにあります。地域での体験機会の提供や居場所づくりが大切です。現在、小学校における「放課後こども教室(わくわくキャンパス)」では、地域の方々のご協力のもと、こどもたちにさまざまな学びが提供されています。貧困のあるなしに関わらず、希望する多くのこどもたちに学習・体験の場を提供することで、こどもたちのより良い成長の一助となればと願ってやみません。今後のさらなる充実を求めました。また、現在、要保護・準要保護世帯の中学生には、学習支援事業が行われていますが、希望するこどもたちにも何らかの学習支援の機会が必要と考え、そのような場づくりに向けて提言を行いました。私も微力ですが、今後もできることから取り組んでまいります。

動物愛護施策について

- Q 平成28年度のイヌ・ネコの殺処分の数は。
A 病死などは犬2頭、猫51匹であったが、殺処分は0であった。
- Q 多頭飼育の現状と対応は。多頭飼育が崩壊する前に適切な対応を。
A 不妊手術をしないために、動物が増えちゃう多頭飼育については、現場を訪問し、適正な飼養について指導している。多頭飼育崩壊はセンターのみでは、対応が困難であり、ボランティアへ協力を要請しながら、進めている。今後は飼養者への適正飼養の指導をさらに進めていく。
- Q 多頭飼育崩壊を防ぐため、動物愛護管理条例の改正(10匹以上は届出制の導入など)を。
A 他都市の条例・状況を踏まえ、調査研究してまいりたい。
- Q 動物虐待が地域で起きている。虐待への早期対応を。
A 通報があれば、現場を訪問し、飼い主等に指導を行っている。市内を徘徊する犬猫が負傷している場合は、収容して応急処置を施している。虐待が疑われる事案については、県警とも連携して対応していく。
- Q 「野良猫への不妊去勢手術事業」の効果検証は。さらなる拡充は。
A 事業開始の22年度と27年度では、センターへの野良猫の収容数は半減し、糞尿・悪臭の苦情件数は66%減少し、不妊手術を行った地域では子猫の数が減少し、効果を挙げている。今後も引き続き、実施していく。
- Q 野良猫の不妊手術等を行う地域猫活動・愛護活動へのさらなる理解周知を。
A 今後も地域猫セミナーや自治会への出前講座を実施していく。28年度には、環境省と連携し、「地域猫活動」や「動物愛護」に関する啓発チラシを作成し、各自治会へ配布をしたが、今年度も実施していく。
- Q 新たな飼い主への「譲渡会」の土日開催など、譲渡推進の取り組みを。獣医師、センター職員の拡充を。
A 市で行う猫の譲渡会では、例年約400頭が譲渡されており、今後も平日を中心に行っていくとともに、ボランティアによる土日の譲渡会の後援や広報を行っている。人員の確保にも努めてまいりたい。
- Q 市動物保護指導センターが老朽化している。昨年も提案したが、動物愛護推進・譲渡推進に向けて、センターの建て替え、機能の改善・充実を。
A 今後は、収容環境の改善と動物愛護機能の充実のため、新たな施設の整備について検討していく。
- Q 今後の議会で「ふるさと納税等を活用して、動物愛護施策のための資金を集めてはどうか」と提案したが、その後の取り組みは。現状と今後の活用は。
A 4月からは千葉市の「ふるさと納税」のメニューの中に「動物愛護の推進」の項目を追加し、6月現在、34,000円の寄付が寄せられており、犬猫の譲渡事業の推進、適正飼養の普及啓発等に活用してまいりたい。今後は、さらなるPR・周知に努めてまいりたい。(→詳細は4面へ)
- Q 今後も動物愛護施策推進のため、ボランティアとのより良い協働・連携を。
A 譲渡に向けて、収容された乳飲み猫の育成、馴化(人に慣れさせる作業)、トリミングをはじめ、行政だけでは対応が困難な地域猫対策などでボランティアの協働は不可欠であり、連携を強化してまいりたい。

数	平成年度	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年
犬	センターでの死亡数	272	161	62	38	24	20	4	3	1	2
	うち、殺処分数	不明	不明	不明	27	15	11	1	1	0	0
猫	センターでの死亡数	1111	1027	757	560	304	349	236	57	68	51
	うち、殺処分数	不明	不明	不明	258	92	127	143	1	0	0



【野良猫の保護活動の様子】

亀井はこう考える！ 2年連続殺処分ゼロを達成！今後も施策推進を！

- 私が継続的に取り組んでいるテーマです。全国の犬猫の殺処分数は、40年前の約125万匹から2015年度8万3000匹と年々減少傾向にありです。千葉市では、ボランティアの方々、市民の皆様、行政のご理解ご協力がもたらされ、2年連続で、「犬猫の殺処分ゼロ」を達成しました。
- 殺処分はゼロとなりましたが、放っておけば、またすぐに不幸な犬猫は増えてしまいます。昨今では「高齢者のペット問題」(急な病気・入院や死亡に伴って、飼育困難になるケース)や野良猫等へのエサやりや不適正な飼養によって、1匹があつという間に何匹にもなるという「多頭飼育問題」も全国で増加しています。本市でも多頭飼育崩壊も発生しており、市としての早期の対応・対策を求めました。
- また、そのような不幸な野良猫がみだりに増加しないように、現在、市では、野良猫を保護し、不妊手術を施す「不妊去勢手術事業」と市民ボランティアによる「地域猫活動」によって、不幸な猫、新たに生まれる子猫は確実に減少し、糞尿・悪臭等も着実に減少しています。動物が好きな人・嫌いな人のためにもなる「地域猫活動」へのご理解ご協力をお願い申し上げます。
- 現在、多くの自治体では、「収容・殺処分」ではなく、「譲渡・愛護推進」のための新しい機能を持ったセンターが次々と建設されています。これまでも動物愛護推進のための新たな施設と求めてきましたが、今回、「新たなセンターの整備を検討する」と市から前向きな答弁がありました。
- 今後は、積極的に活動するボランティアの方々との連携・支援を通じて、市の動物愛護行政がさらに充実することを願ってやみません。そしてまた、この流れが千葉県や全国に広がっていくことも大切です。不幸な犬猫が1匹でも減り、心を痛める方が少なくなるように、私も活動する決意です。

日々精進の記録！ ～写真で見る活動記録～

九州北部豪雨災害 支援のため福岡・大分へ！

7月5日に九州北部を襲った豪雨被害の被災地支援のため、7月6日～21日の日程で、福岡県朝倉市、大分県日田市に入り、支援活動に従事してまいりました。



日田市では、全国から駆け付けたボランティアの方々、河川増水により浸水被害に見舞われた御宅の床下にて、土砂の掻き出し・運び出し作業などを行いました。また、皆様からの義援金をお届けしてまいりました。支援活動を通じて、学んだことを、千葉市の防災・減災対策に活かしていきたいと考えています。

「教育未来委員会副委員長」を拝命！

市議会では、今回の6月議会で議会内の役職などの改選が行われました。私は「教育未来委員会」(教育委員会・こども未来局長を所管)への所属が決まり、同時に副委員長を仰せつかりました。こども・若者の施策の充実に向けて、この1年、またあらたな気持ちで精進する決意です。



皆様の声の実現！ ～あの提案はどうなった？～⑦

ふるさと納税拡充！ 皆様の寄付が「動物愛護の推進」に役立てられます！

4月から、「千葉市ふるさと応援寄付金」(ふるさと納税)のメニューに「動物愛護の推進」が追加されました。御寄附いただきますと、市の動物愛護施策のために活用されるとともに、税金の控除も受けられます。詳細は、インターネットで「千葉市ふるさと応援寄付金」と検索いただくか、生活衛生課(245-5215)までお願い致します。

TEL/FAX 043-255-8108 携帯電話 090-3694-4173

携帯メールが留守番電話にメッセージをお願いします！お手紙も大歓迎です！
ホームページ <http://www.kamei-takuma.com>
メール DQG06110@nifty.ne.jp

フェイスブック、ツイッター、ブログもやっています！ 亀井たくま でご検索ください！

亀井たくま(37歳)、日々修行中です！！

1980(昭和55)年生まれ。椿森出身・在住。
・作草部幼稚園 都賀小・椿森中
・市立千葉高 早稲田大学政治経済学部
・早稲田大学大学院公共経営研究科修了。
2007年市議選で21票差で落選。2011年、2015年当選。

- ・行政書士・社会福祉士
- ・精神保健福祉士・愛玩動物飼養管理士
- ・防災士・ホームヘルパー2級
- 会議の仕事
- ・教育未来委員会副委員長
- ・議会運営委員会委員
- ・保健所運営協議会委員
- 趣味
- ・明治～昭和の懐メロ。
- ・好きな歌手は灰田勝彦、東海林太郎。
- (地域で演奏・茶話会のボランティアができます)

市民の皆様と一緒にクリーン・あたたかな市政をめざします！

ワンコインカンパ(1口500円・複数口大歓迎！)にご協力ください。
郵便振替口座 00190-7-456984 亀井たくま と 亀の歩みの会

最後までお読みいただきまして、ありがとうございました！